

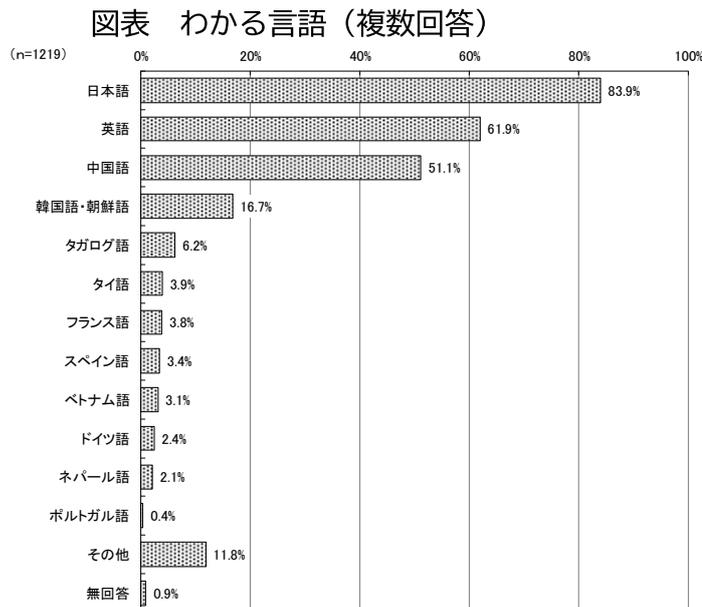
II 調査結果のポイント

1 外国人意識調査

ポイント1

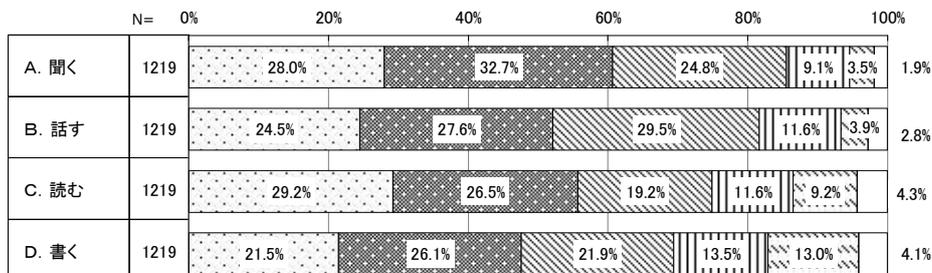
日常会話以上の日本語ができる外国人は8割以上、読む・書くより聞く・話すことができる外国人の方が多い (P.22、28)

わかる言語は、「日本語」(83.9%)が最も高く、次いで、「英語」(61.9%)、「中国語」(51.1%)となっている。



「A.聞く」及び「B.話す」の習得度は、「複雑で難しい日本語でもわかる」「仕事で使う日本語はわかる」「日常会話ができる」と回答する合計の割合が80%を超えている。「C.読む」及び「D.書く」の習得度は、「複雑で難しい日本語でもわかる」「仕事で使う日本語はわかる」「日常会話ができる」と回答する合計の割合が70%前後となっている。

図表 日本語の習得度 (単一回答)



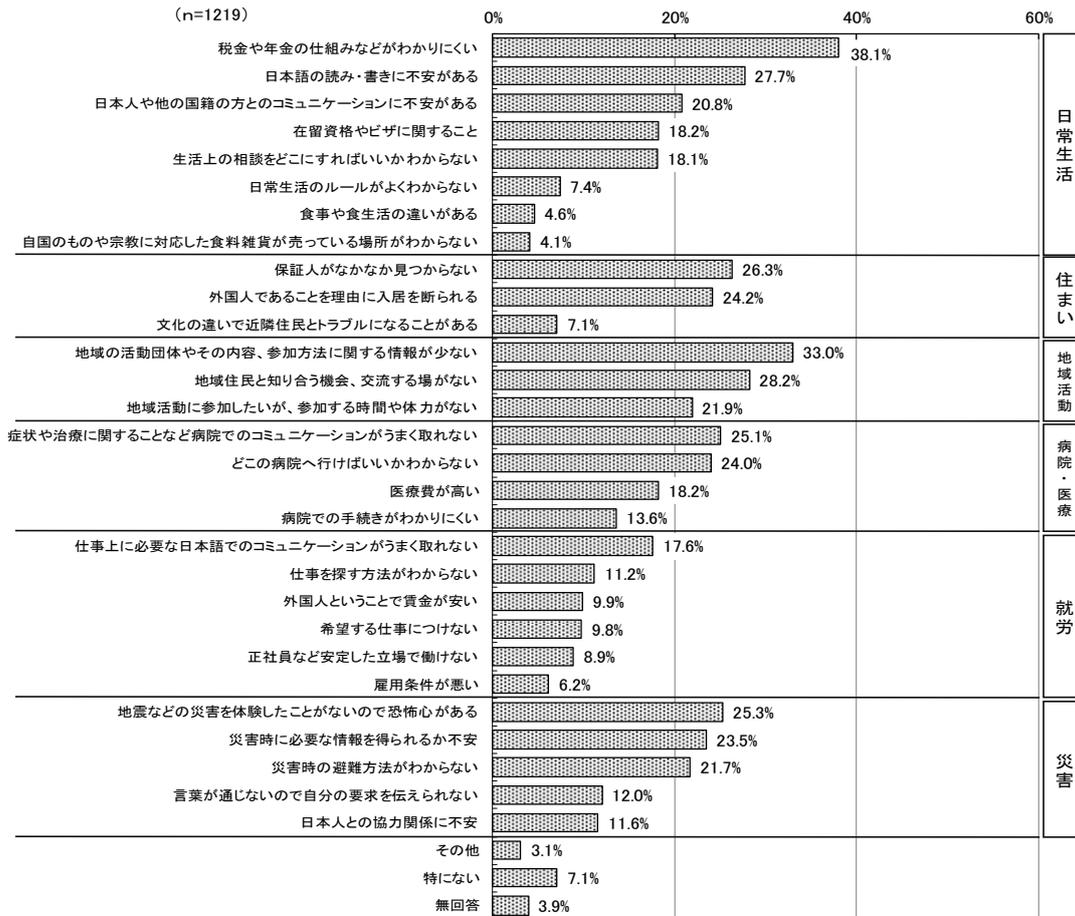
- 複雑で難しい日本語でもわかる
- 仕事で使う日本語はわかる
- ▨ 日常会話ができる
- ▩ 挨拶や道案内などコミュニケーションをとる程度できる
- ▧ できない・ほとんどできない
- 無回答

ポイント2

税金や年金について困っている外国人が多く、情報がより必要とされている (P.56、76)

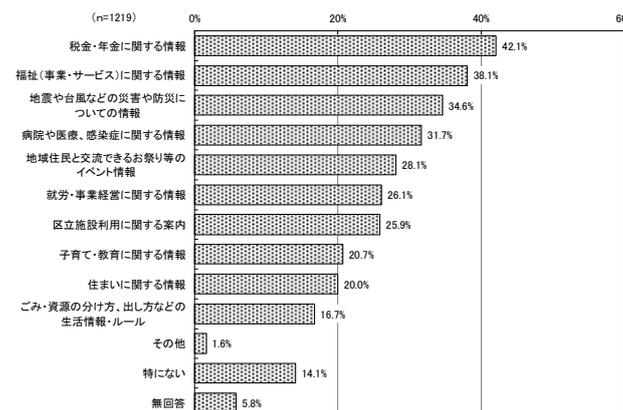
日本での生活で、困っていることや心配なことについて、「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(38.1%)が最も高く、次いで、「地域の活動団体やその内容、参加方法に関する情報が少ない」(33.0%)、「地域住民と知り合う機会、交流する場がない」(28.2%)、「日本語の読み・書きに不安がある」(27.7%)などと続いている。

図表 日本での生活で、困っていることや心配なこと (複数回答)



また、生活していくうえで必要な情報について、「税金・年金に関する情報」(42.1%)が最も高く、次いで、「福祉(事業・サービス)に関する情報」(38.1%)、「地震や台風などの災害や防災についての情報」(34.6%)、「病院や医療、感染症に関する情報」(31.7%)などと続いている。

図表 生活していくうえで必要な情報 (複数回答)

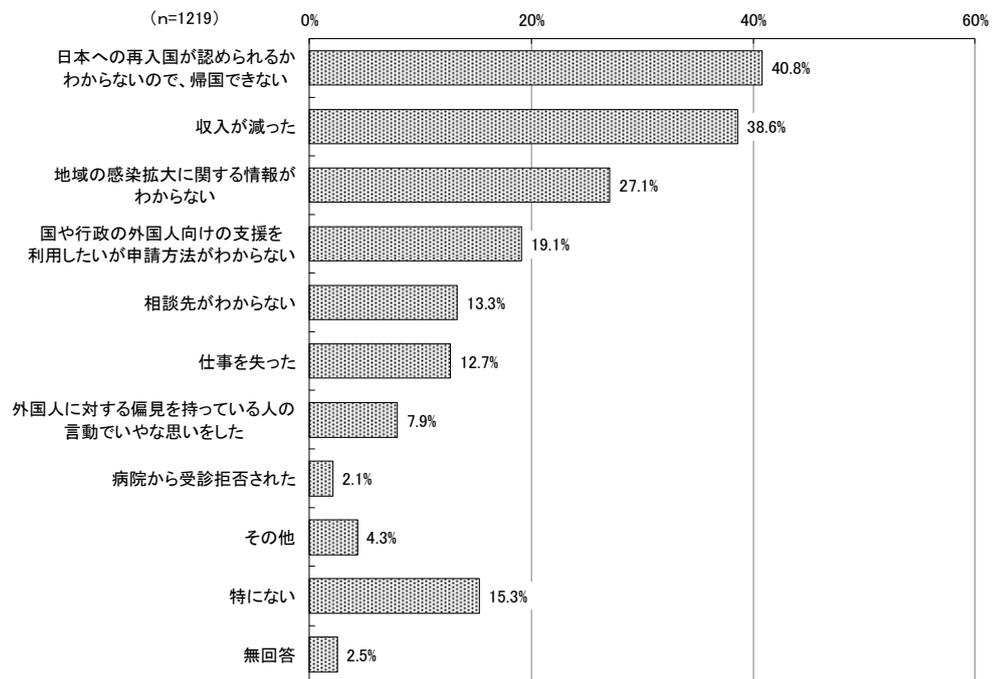


ポイント3

新型コロナウイルス感染拡大により、約4割の人が再入国への不安から帰国できないことや収入の減少という影響を受けている (P.71)

新型コロナウイルス感染拡大による影響について、「日本への再入国が認められるかわからないので、帰国できない」(40.8%)が最も高く、次いで、「収入が減った」(38.6%)、「地域の感染拡大に関する情報がわからない」(27.1%)となっている。

図表 新型コロナウイルス感染拡大による影響 (複数回答)

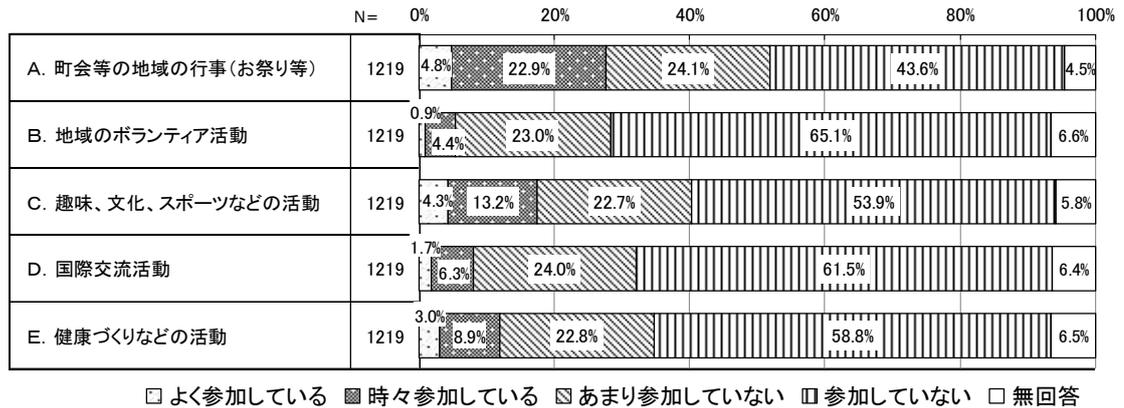


ポイント4

地域活動への参加率はお祭り等が多く3割弱となっているが、関心は国際交流・異文化交流が最も高い
(P.95、107)

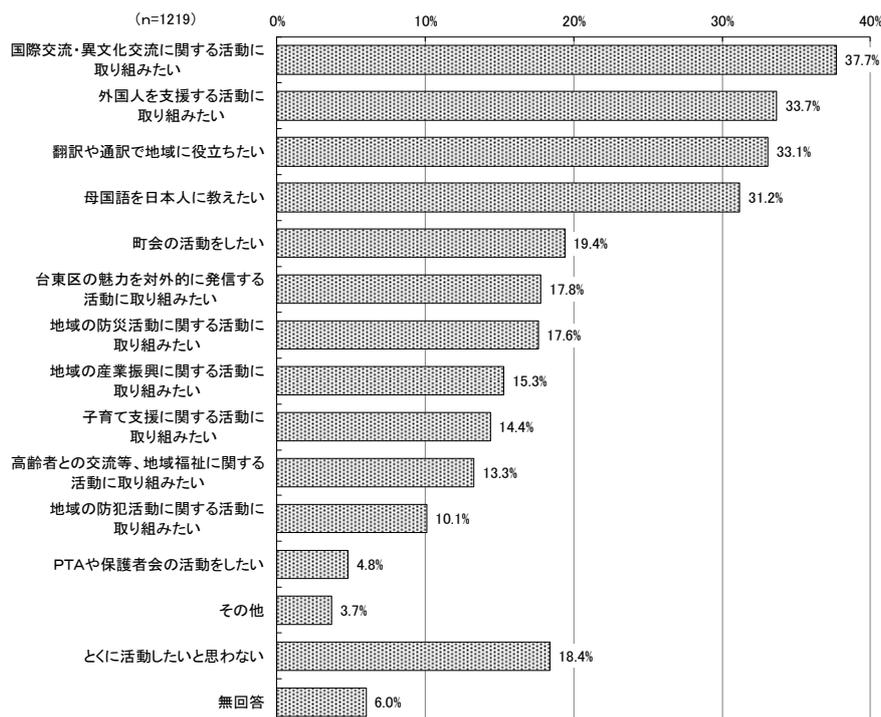
地域活動への参加状況について、「よく参加している」「時々参加している」の合計の割合は、「A. 町会等の地域の行事(お祭り等)」(27.7%)が最も高く、次いで、「C. 趣味、文化、スポーツなどの活動」(17.5%)、「E. 健康づくりなどの活動」(11.9%)となっている。

図表 地域活動への参加状況 (単一回答)



また、地域活動への今後の参加意向について、「国際交流・異文化交流に関する活動に取り組みたい」(37.7%)が最も高く、次いで、「外国人を支援する活動に取り組みたい」(33.7%)、「翻訳や通訳で地域に役立ちたい」(33.1%)となっており、国際交流・異文化交流などの地域活動に関心を持っているが、活動できていない人が多いことがわかる。

図表 地域活動への今後の参加意向 (複数回答)



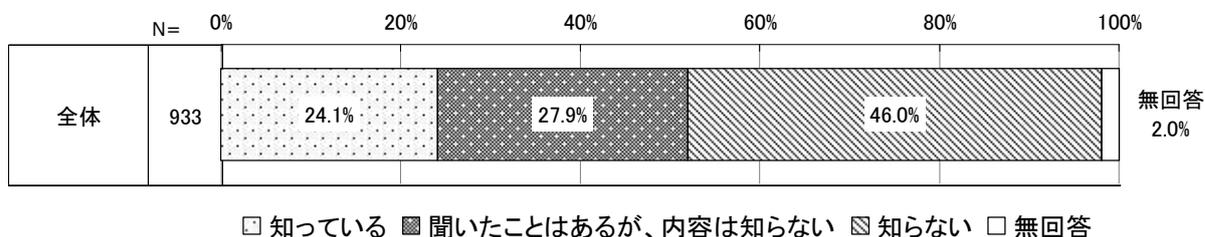
2 日本人意識調査

ポイント5

「多文化共生」という言葉の認知度は5割強、
「やさしい日本語」という言葉の認知度は4割弱となっ
ている (P.140、142)

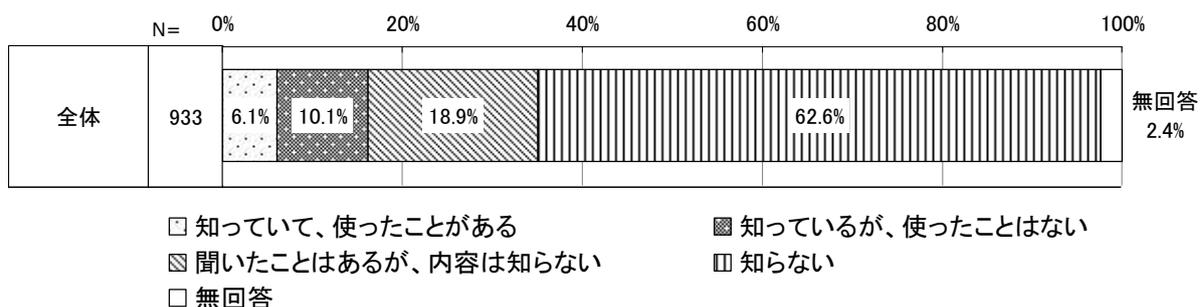
「多文化共生」という言葉について「知らない」(46.0%)が最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(27.9%)となっている。「知っている」(24.1%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」(27.9%)を合わせた認知度は52.0%である。

図表 「多文化共生社会」という言葉の認知度 (単一回答)



また、「やさしい日本語」という言葉についても「知らない」(62.6%)が最も高く、次いで、「聞いたことはあるが、内容は知らない」(18.9%)となっている。「知っている、使ったことがある」(6.1%)、「知っているが、使ったことはない」(10.1%)と「聞いたことはあるが、内容は知らない」を合わせると認知度は35.1%である。

図表 「やさしい日本語」の認知度 (単一回答)

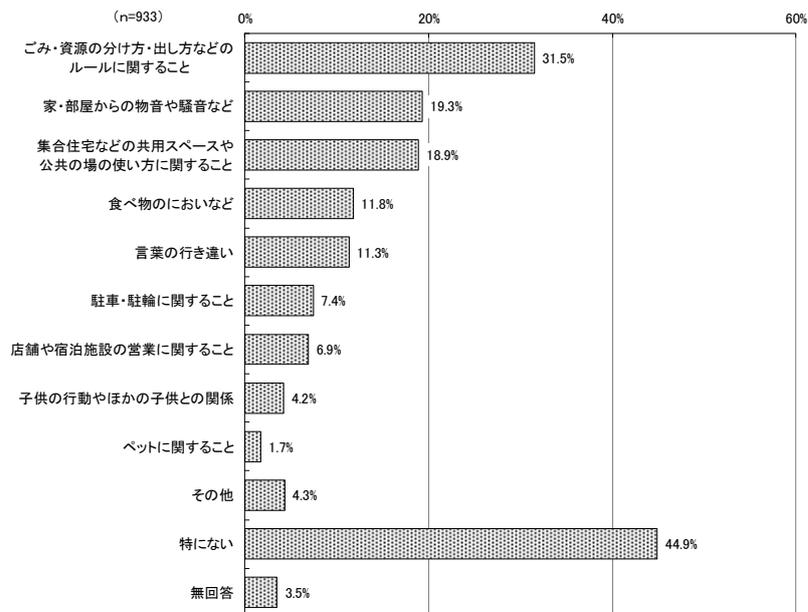


ポイント6

地域住民相互の理解のために外国人に求めることは、日常生活のルールに関することが最も高い (P.131、138)

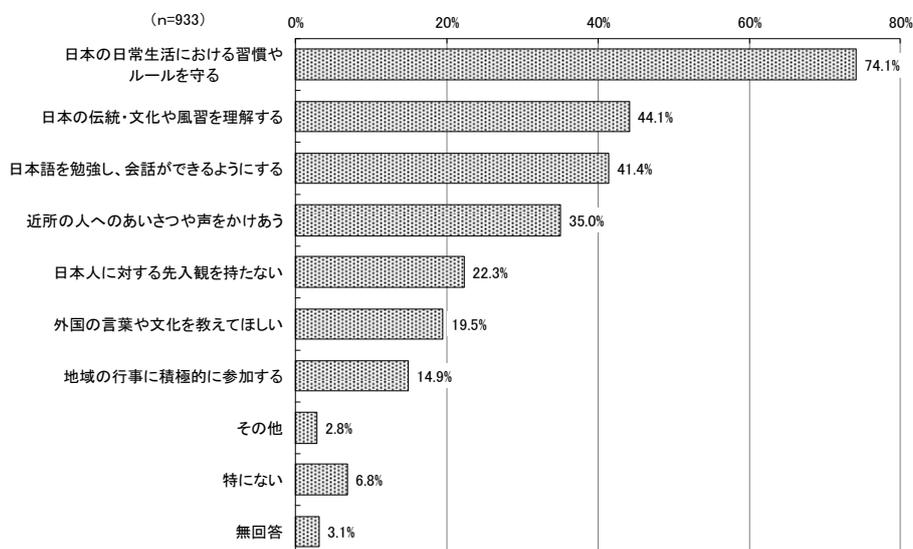
地域に暮らす外国人との関係で困った経験について、「ごみ・資源の分け方・出し方などのルールに関すること」(31.5%)が最も高く、次いで、「家・部屋からの物音や騒音など」(19.3%)、「集合住宅などの共用スペースや公共の場の使い方に関すること」(18.9%)など、日常生活のルールに関する項目への回答が高い結果となった。

図表 地域に暮らす外国人との関係で困った経験 (複数回答)



また、住民相互の理解のために外国人に求めることをみると、「日本の日常生活における習慣やルールを守る」(74.1%)が最も高く、次いで、「日本の伝統・文化や風習を理解する」(44.1%)等、ルールや風習に関する回答が多く、困った経験との関係が深いことがわかる。

図表 住民相互の理解のために、外国人に求めること (複数回答)



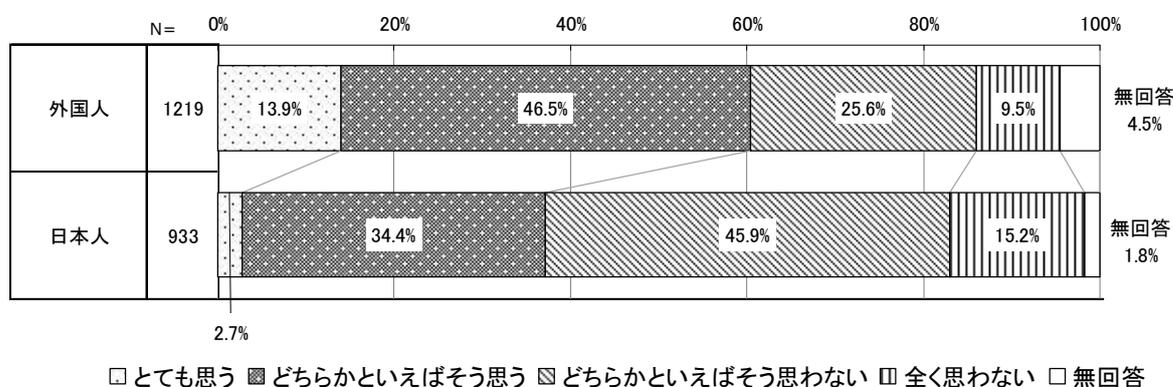
3 外国人・日本人 共通設問の比較

ポイント7

外国人に対して日本人の方がより地域の中で相互にコミュニケーションがとれていないと感じている (P.159)

地域の中で日本人と外国人が互いにコミュニケーションをとれていると思うかについて、「とても思う」「どちらかといえばそう思う」割合の合計は、外国人は60.4%に対し、日本人は37.1%となっている。一方、「全く思わない」「どちらかといえばそう思わない」割合の合計は、外国人は35.1%、日本人は61.1%となっている。

図表 地域の中で外国人と日本人のコミュニケーションがとれているか (単一回答)

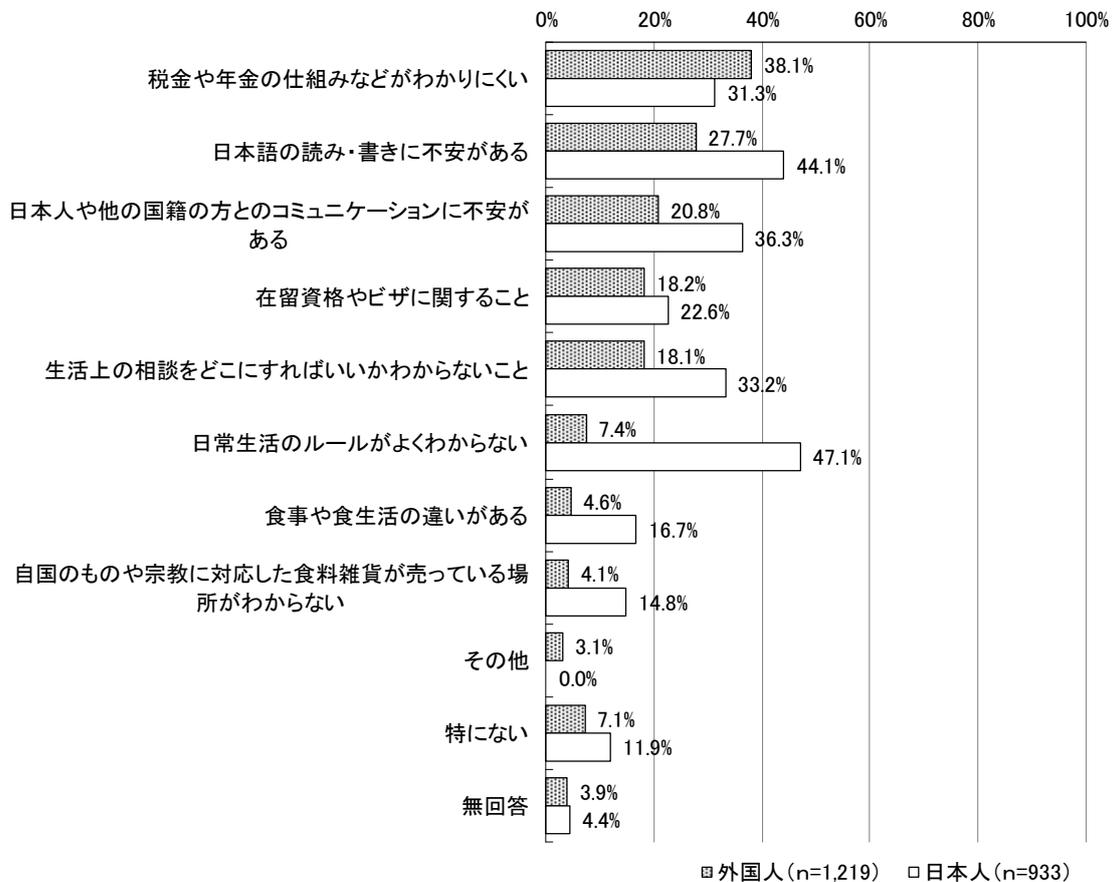


ポイント8

「外国人の困りごと・心配ごと」について、外国人と日本人の認識にはやや差異がある (P.158)

日本人が思う外国人が困っていることや心配なことは、「日常生活のルールがよくわからない」(47.1%)が最も高くなっているが、外国人は7.4%と低く、「税金や年金の仕組みなどがわかりにくい」(38.1%)が最も高くなっている。このことから、外国人は日本人が思っているより、日常生活のルールに困っておらず、外国人と日本人の認識にやや差異があることがわかる。

図表 日本での生活で、外国人が困っていることや心配なこと（複数回答）



※外国人調査票と日本人調査票に一部相違がある。外国人調査票の設問では「日本での生活で、困っていることや心配なことはありますか」としており、日本人調査票の設問では「地域に暮らす外国人が困っていたり、不安を感じていることは何だと思えますか(あるいは何ですか)」としている。また、外国人調査票では、「住まいのこと」「地域活動のこと」「病院や医療のこと」「就労・事業経営の支援のこと」「災害時のこと」について、選択肢が細分化されており比較できないため、「日常生活」の項目のみ比較している。